

アコヤガイへい死対策に向けた飼育試験追跡調査結果（R3～）

（避難貝追跡調査〔2年貝〕：最終版）

（調査日：令和4年11月15日）

愛媛県農林水産研究所水産研究センター

1 目的

- アコヤガイの大量へい死対策として、昨年度実施したリスク分散試験の試験貝を引き続き調査し、2年目以降の貝の状況について明らかにする。

2 試験区の設定

- 昨年度の試験後に宇和海北部の西予市、宇和島市の漁場で継続飼育している貝、試験後に南部漁場へ移動して飼育している貝及び当初から南部漁場で一貫して飼育している貝を用いた。
- 各地点の日中交雑貝を調査し、地点間で比較を行った。

3 調査結果の概要

- 調査した地点すべてで、異常死は見られていない。
- 外套膜の萎縮はいずれの漁場でもみられていないが、褐変は、北部漁場で継続飼育している貝の一部に最大40%、南部へ移動した貝の一部に最大10%見られた。
- 貝殻内面の変形（段）が、北部漁場で継続飼育している貝で40-70%、北部漁場から南部漁場へ移動した貝で20-60%、南部漁場で一貫飼育している貝で15%確認されているが、いずれも昨年度中に形成されていたものとみられる。
- グリコーゲンの量は、北部漁場の一部を除き10月と比較して高めであった。
- 成熟度は、北部漁場では10月と同等程度であったが、南部漁場では上がっており、南部漁場では卵の成熟が進みつつあるとみられる。

11月15日調査									
漁場	地区	系統	殻長 (mm)	全重量 (匁)	グリコーゲン 含量(%)	卵の成熟度* (5段階評価)	外套膜 萎縮	褐変	貝殻内面 の段
北部	西予市	日中交雑貝	65.2	9.5-10.0	2.0-3.9	2.0	0%	0-40%	40-70%
	宇和島	日中交雑貝	55.7	6.0	2.7	1.7	0%	0%	40%
北部→南部	西予市→愛南町	日中交雑貝	66.7-69.8	10.7-12.9	2.6-2.8	2.5-3.3	0%	0-10%	20-60%
	宇和島市→愛南町	日中交雑貝	61.1	8.7	3.7	2.8	0%	0%	20%
南部	愛南町	日中交雑貝	70.5	13.3	3.7	3.0	0%	0%	15%

*値が高いほど成熟が進んでいる

4 調査方法

- 水産研究センター職員が各漁場を回り、貝の状態、へい死率を確認するとともに、地点及び貝の系統毎に10個体を水産研究センターに持ち帰り、貝殻及び貝肉の状態を調査。